

事業効果の発現状況の捉え方について

<担当課：林政課>

事業名	事業の背景・必要性（目的）	事業効果の発現状況
<p>治山事業</p> <p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 山腹工 A=0.28ha (法枠工、木製土留工ほか) 	<p>平成23年に甚大な被害をもたらした豪雨災害により、新郷村大字西越字温泉沢地内の山腹斜面の崩壊や土砂の流出を引き起こし、斜面下部には崩落土砂が堆積している。</p> <p>このまま放置すると、今後的大雨等で山腹斜面に堆積している土砂が流出し、直下の温泉施設や村道、下流域の農地等に被害を及ぼすおそれがあった。</p> <p>そこで、斜面内に堆積している土砂の流出防止や拡大崩壊を防止するため、斜面の安定を図る山腹工を施工し、地域の安全・安心を確保するものである。</p>	<p>【想定した事業効果】（既存）</p> <p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 山腹斜面の整備により、土砂流出量の減少により得られる山地保全の効果 <p>《その他の効果》</p> <hr/> <p>【事業目的の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工後の平成30年度以降、当該地区において降雨時の土砂流出などの災害は発生していない。 森林が保全されることで、良好な環境が維持されている。